

長寿者の日記分析を通じた老年的超越の構成要素の再探索

中島 千宏

高齢化が進む中、誰にでも必ず訪れる高齢期をいかに幸福に生きるかは重要な課題である。高齢者の健康や幸福に関わる重要な概念であるサクセスフルエイジングについては、医学、社会学、心理学的観点から様々な議論が行われてきた。医学や社会学におけるサクセスフルエイジングの議論では、身体機能や社会参加活動の維持が重視される(Havighurst, 1961; Rowe & Kahn, 1997)。しかし、特に超高齢期には身体的側面の機能低下は避けられない一方で、心理的側面の指標は維持されることが示されている(権藤他, 2005)。このことから、心理学の観点からサクセスフルエイジングを捉えることは重要であると考えられる。

老年的超越理論は、サクセスフルエイジングに関する心理学的理論の一つであり、高齢期に高まるとされる「物質的・合理的な価値観から宇宙的・超越的な価値観への変化」を意味する(Tornstam, 1989, 2005)。老年的超越は、高齢期の心理的側面に肯定的な影響を与えることが示唆されている(Hoshino, Zarit, & Nakayama, 2012; 増井他, 2010, 2019; Tornstam, 2003, 2005)。一方で、老年的超越理論の内容が複雑で曖昧であるという課題が指摘されている(Jewell, 2014; 増井他, 2010, 2013)。また、老年的超越と年齢の関連が検討されているが、結果は一貫していない(Braam, Bramsen, Tilburg, Ploeg, & Deeg, 2006; 増井他, 2010, 2013, 2015; Read, Braam, Lyyra, & Deeg, 2014; Tornstam, 1997, 2003, 2005)。本研究では、老年的超越の構成要素を再探索することを目的とし、2022年1月現在101歳である洋画家の野見山暁治による約17年間の日記を対象に、質的・量的の両側面から分析を行った。まず、既存の老年的超越の構成要素を踏まえ、日記から超越に関連する記述を抽出した。その際、超越的な内容の記述だけでなく、超越に逆らう内容の「抗超越的な記述」も抽出した。抽出した記述をカテゴリーに分類し、記述内容を簡潔に表すラベルの作成を行った。

抽出・分類作業を経て分析対象となったのは計1751個の記述で、【「ありがたさ」・「おかげ」の認識】、【内向性】、【二元論からの脱却】、【宗教的もしくはスピリチュアルな態度】、【社会的自己からの脱却】、【基本的で生得的な肯定感】、【利他性】、【無為自然】、【物質的なものに対する態度】、【超越的な幸福の源泉】、【自己対峙】、【自然との関わり】の計12個のカテゴリーが得られた。各カテゴリーに分類された記述内容をもとに、日本人における老年的超越の構成要素の内容や関連要因について検討を行った。さらに、日記の全記述日数に占める、超越的および抗超越的な記述がみられた日数の割合を「(抗)超越的な記述の出現割合」とし、その長期縦断的な変化を検証した。

本研究から、日本人の老年的超越の構成要素に自然に対する感覚が含まれること、老年的超越の発達的变化には年齢だけではなく、死を身近に感じる経験や仕事経験、身体の状態が影響していること、構成要素によって加齢変化の形態が異なること、超越的な傾向とそれに反する傾向は独立に変化することが示唆された。このことから、日本人における老年的超越の発達的变化について考える際、自然に対する感覚を視野に入れながら、年齢以外の要因や超越に抗う態度にも着目して構成要素ごとに検討を行うことが必要であると考えられた。

これまで、対象者を長期的に追跡し老年的超越の縦断的な変化を検証した研究はみられない。1人の日本人超高齢者の超越的価値観を長期縦断的に検証した本研究の結果は、日本人における老年的超越の構成要素や発達的变化を明らかにする一助となると考えられる。(臨床死生学・老年行動学)